



里見八犬傳

九輯

五十

僧持  
600  
288



14  
600  
288

# 八犬傳第九輯結局下編

曲亭翁口授編著作卷中婦幼  
代稿上像柳川在信漢高英泉兩尊  
追刻五冊 江戸書林文漢堂正舖

南總里見八犬傳第九輯卷之五十

東都 曲亭主人編次



## 第百八十回上附録目

一姫一僧死生榮貴を等くま  
孝感力廿藝詠歌奇異を賛ま

却説扇谷山内の面管領定正里見と和睦整て會盟の爰を果せし詭  
使熊谷二郎左衛門尉直親ハ既ニ歸京の歩あり是より定正顯定の使者と  
室町殿へあはれを。罪過恩免と拜謝し奉らんと定正の使者白石城ハ重勝  
顯定の使者齋藤左兵衛佐高實両家の伴當甚からむ隨即直親ハ相  
俣して明日啓初を致さといふその日直親より快船の使をり。勅使代秋篠廣  
當不件の爰を告りかど廣當ハ敢て之を先其使をかく遣りて却大江親兵衛  
と登崎照文と招れきて告る不件の爰をりて。聲を低て又り奪。熊谷歸

京の告あれども。這回ハ咱等他と一路見お做るべからず。何と云ふ他ハ兩管領の使者と  
俱し。我ハ是勅使代也。且各と伴ふべし。他が下風お立ちか。あどりく四五  
日と歴て。歸路お赴き。思ふ先夫の妾を安房殿へ宣上し。ぬとあり。其親兵衛  
も照文も一議不及む。諾むひ。退りて先兩家老と七犬士等お告知せ。却一同  
義成主へ那議をゆえ上。か。義成主點頭て然ら。我と義通の名代也。照文  
兼帯たる。元者後八犬士等へ受領の拜礼お上洛せ。あるべからず。但老館義成の  
御名代也。何人を欲得参ま。死御意を伺ひ。まら。奴と問れて親兵衛照文阿と  
応り。共侶お膝と找め。宣上せ。其美の往日老館の御意と兼り。し。ゆひ。死  
這回上洛の御名代也。大こそ相應。か。ぬ。我ハ久し。た。桑門見り。非如升進の  
朝恩ありとも。義成義通と同。か。る。且。大に千餘年。仍脚の東の八箇  
圍の。ま。皇城の地を踏され。ば。折。く。を。あ。む。ま。ら。んと。仰。られ。ひ。ひ。死。と。い。ふ。義

成王又點頭て有理其御意こそ最妙なれ。然ら。大を召べ。と。い。ふ。あ。照文  
答て。否。那法師ハ東西御和睦の。執。び。を。宣。上。え。と。方。僅。参。り。あ。れ。と。ゆ。え。く。遠  
侍。不。も。ゆ。ゆ。と。告。れ。ば。義。成。主。微。笑。て。開。き。幸。の。ゆ。か。疾。召。ま。せ。と。吟。吟。の。後  
方。お。ゆ。り。近。習。の。毎。心。も。果。を。身。と。起。し。て。次。の。間。投。て。退。り。け。姑。且。し。て。大  
法師ハ引れ。君邊。お。ま。け。り。當。下。辰。相。清。澄。照。文。も。大。士。等。も。卒。と。な。り。お。恥。て  
席。と。讓。り。け。大。法師ハ。茶。一。く。義。成。主。お。拜。見。し。て。和。睦。の。執。ひ。と。宣。上。を。あ。ぞ  
親。兵。衛。照。文。執。合。し。て。師。父。ハ。い。ま。ご。知。ぬ。目。今。任。々。の。仰。ひ。ひ。死。と。件。の。一。議。を  
告知。ら。ま。れ。大。に。所。々。眼。と。睜。て。開。き。難。美。の。御。説。を。お。家人。か。い。り。あ。り。て。各。位。と。共。侶。お  
然。る。暗。が。き。し。御。名。代。お。立。ま。京。師。へ。参。上。え。と。思。ひ。ぬ。と。我。身。の。昔。日。と。い。う  
へ。れ。必。死。の。罪。と。宥。め。ら。れ。て。頭。髪。を。首。お。換。え。せ。ぬ。ひ。老。侯。の。御。大。恩。を。今。ま。ま  
空。お。仕。ら。ぬ。況。今。那。君。の。御。名。代。お。擇。れ。ハ。生。甲。非。支。あり。と。い。ふ。べ。縦。水。火。の中。を。も

辨ひまらふ不爰不忠之脚説兼りひひぬ参るべしと繰返し々答直せ義  
成王致びて然らる事既小急之照文の明日、大をねて瀧田へまゐりて老館小の  
爰を具不爰上く猶脚旨を請まらね親兵衛信濃下野等自餘の犬も  
共侶不逆旅の準備といへくべし又六郎兵庫助の朝廷并小室町殿へ献るべし東  
西之有司不課て調達去しと言送もる宣はれれば大家齊一言兼してうち連  
立てを退出ける左右より程小暑熱弥増六月五日の朝秋公條將曹廣當ハ  
明日の旦用不當所を退りて歸京去しと公告ありて義成王ハ又親兵衛と  
照文といへく餞別の人情あり去向ハ洲崎の港口より相摸る大磯へ投渡して  
東海道を上りてくべしと豫定せられぬ大江親兵衛犬塚信濃犬坂下野大  
山道即大村大学大川莊小大田豊後犬飼現八兵衛等ハ蚤崎照文、大  
法師と皆廣當不相俱して公船の纜を解き去り約莫這僧俗十名の伴

當ハ胡意畧して多々を鏡内葉四郎後岡猿八直塚紀三漕地喜勘大を  
首之輕卒奴隸夫役也。廣當の從者と俱ハ百五六十名許るべし六月六日の  
早天ハ王僕巨舫うち乗りて大磯を投て漕き小早川涼江順風をてその日  
亭午の時候不伴の浦小あまければ這里より船を洲崎へ返して陸路を西へ赴  
く小貌姑峰足柄の胤智が故御也伊豆の莊の故園るれば有轂系小懐昔の  
情るにあらば恣而日歩之夜小歇りて二十餘日おいて障ることを京師小  
來りけり。登時秋篠廣當の室町殿へも朝廷へも返命を奏せんとて別れ其  
方小赴けり。大照文ハ大士等ハ三條頭小歇店を求めて船を熊谷が宿  
所小泊りて義實義成義通の名代、大照文並ハ大士等東西和睦恩命の  
御答又君臣拜任の御礼小参上の爰を告りて直親則對面を其上路の  
速るを勞ひて明日室町東山の両御所へ参上るべし其進退を指揮也

且扇谷山内の使者白石重勝齋藤高實の拜礼の事果て大昨日帰  
國を許されしが岐路と東へ退りて各も還参まざるべしと期を推  
く。開が儘旅宿へ返されけり然るに次日、大照文八犬士等俱朝服を整  
へて伴當夫役を従へり己牌の左側小室町殿へ参上りて里見義實義成親  
子の及代の使者並家臣八犬士等謝恩の爲上洛の長を尊え上て義成王の  
呈書と拜任の執事多種を進らせしが、大照文八犬士を正廳へ召よめて管領  
畠山政長對面あり熊谷直親執達あり當下政長へ、大照文八犬士等不  
うら向ひて義實義成父子の忠信善政と八犬士諸臣の勲功を先言て今日  
も汝達將軍家擬制拜見の誼を饒さるる上昨日より御欠安なりませ  
目今の誼及れ且汝達が参内も異日の御沙汰あるべし宿所へ退りて其折を  
俟なむべしとありて、大照文八犬士等先度不懲りて堪るべしと思ふも元辭

難て只得唯々と養生ありて退りて歸て東山殿へ詣て東西を献するも其妙か  
ら其歸路の管領政長及評定衆の諸郎をうち巡りて献送の人情を齋  
まるも亦差あり諸礼やうな事果て三條の宿所へ還りてより日と更なれ  
ども御沙汰るければ誰れ逗留の徒然に堪ざるべし、大法師の炎暑を犯  
あて日毎々々小歇店と出て洛内洛外へへさし日枝鞍馬愛宕の山  
或は此亦野々大徳寺へ参禪して一休和尚の迹を尋て靈山靈地名所舊蹟  
小室の隈より大塚大阪自餘の犬士も又照文も送代り小杖を京師の名  
所不曳ども獨大江親兵衛の京童が少知りて靈虎射け勇少年が復  
きて存るも觀つべしとて他が物を寫すとせりかばうるさき思ひて宿所小在り  
他の京師不夫歳の秋より逗留久かりければ自餘の犬士も同く珍ら  
かる故もあるべし。信徒小日を過りて十餘日ありて朝廷の秋條廣當

奏聞を聞召て所見義成仁義善政并大士の忠孝智勇其淵源伏姫の  
孝烈神靈の致所且、大法師が二十餘年の脚勤苦の利益をり、八  
大士と索ゆ、里見の家臣小做あり、他が出家堅固の功德都佛意小稱  
ふ、死事及番崎昭文が年来招賢の使して功多かり、事をも、廣當が  
安房の稲村也、人の噂も少知る処正、かりける其顛末の奇くも又妙るれ、  
帝と首なり、関白殿下殿上人地下の母に至るまで疾其十個の僧俗を見ま  
く、りし思召、か、屢室町殿へ他が参内を御催促あり、有り、程、義  
尚公の病着瘥り、ひ、か、先里見の使者毎と参内、させ、後、小當御所へ  
召下、と、則、音領政長より、大照文八大士、小、の、を、下、知、あり、か、  
、大照文八大士、次の日、朝服と整、り、且、伴當、夫、役、小、臨時の調員を捧  
け、さ、さ、南大門より参内、去、秋、條、廣、當、案、内、小、立、て、御階の下、小、参、あ、り、當

下、大照文の義實義成の奉獻の上書と當職の辭表を口呈され、執  
奏の公卿受會、り、且、仰、告、義、あり、照文、大、の、左、少、將、と、治、部、卿、の、名  
代、る、れ、權、小、外、殿、を、許、さ、せ、め、り、又、八、大、士、の、陪、臣、也、且、自、分、の、拜、礼、を、れ  
とも、國、の、為、小、舌、を、檢、め、或、の、靈、虎、と、對、治、し、て、宸、襟、を、休、め、奉、り、け、其、  
功、共、小、鮮、少、る、と、い、ふ、也、是、亦、權、小、外、殿、小、擬、せ、ら、せ、て、俱、小、天、盃、を、下、さ、れ、け、其、後、仰  
依、る、べ、し、と、是、亦、權、小、外、殿、小、擬、せ、ら、せ、て、俱、小、天、盃、を、下、さ、れ、け、其、後、仰  
必、さ、さ、り、里、見、左、少、將、其、父、治、部、卿、と、君、臣、新、恩、の、官、職、を、受、け、り、と、欲  
ま、る、美、の、勅、許、あり、今、と、り、て、後、君、臣、俱、小、宜、く、前、官、た、る、死、者、也、就、て、左、少  
將、の、女、兄、伏、姫、の、孝、烈、を、死、後、の、屢、神、靈、と、顯、し、て、祐、け、其、國、小、大、功、あ  
り、事、又、大、が、三、年、の、脚、の、事、今、茲、水、陸、施、餓、の、折、法、驗、利、益、揚  
焉、り、と、秋、條、將、曹、廣、當、が、奏、聞、也、睿、感、特、小、淺、く、故、小、伏、姫、を

齋にて富山の神不做あつとやまのしんふ、大法師を推登して大禪師不做おほのせんしと宣下せんげあり。如旃にょせん最も畏れ帝宸翰てんこんと深ふかきをぬり、富山姫神社とみやまひめじんじゃの五大字ごだいじの勅額ちやくがくと賜り且、大禪師の位記ゐきと僧衣そういと恩賜おんみあり。八犬士はつけんしと照文ていぶんの巻絹まきぬ各二卷ごふたまいを下されける。定小異例ちやうこいれいの朝恩あそんるべ、大照文たいていぶん八犬士はつけんしの俱ともに戦戦せんせん競競きやうきやうと拜まがり、まろつ欵けんびありて、宛天あまの浮橋うきはしを渡り果はせし心地こころを被かり連つてを退まり出でける。然しかばその日ひ関白殿せきはくどのと首くびを百官ひやくくわん束帶そくたいの袖そでと連つねて是こを觀みる者もの甚おかしき帝みかども珠簾たまきりの裡うちより多おほく那母なぼを亦また肉にくしてうち含くみみせぬ。然しかば又またその次つぎの日ひ、大照文たいていぶん八犬士はつけんしの室町殿むろまちどの詰ついで、義尚ぎしやう公こう見参けんさんを管領くわんりやう政長せいぢやう評定衆へいぢやうしゆ諸侍しよじ能谷直親のうたけのちか不至こるまで、成正廳せいせいどう不出仕でしを、里見さとみの毎ごとと召めよせらる。室町殿むろまちどの着坐ぢやくざの時とき管領くわんりやう政長せいぢやう奉ほうりて、大照文たいていぶん八犬士はつけんしの台命たいめいを傳つふる者もの、房州朝武ぼうしゆていぶの恩命おんめい不あ従したがひまろて、定正ちやうせい顯定けんぢやうと和睦わくぼくを

神妙しんめう之の弥善政やせんぢやうと施せ、隣國りんこくと和順わじゆんして東國とうこく泰平たいへいの功こうと行おこなはるべし。仰おほせさせ、且かつ御教書ごけいしよを渡わたし、歸國きこくの暇ひまと賜たまひける。義尚ぎしやう公こうの豫よより欲ほしあらずありて、八犬士はつけんしの武藝ぶげいと試相ししやうて殊こと勝かれる者ものと留とどめて京師きやうしの行城ぎやうじやうあつべし。と思食おも食くらければ、京家きやうけの武士ぶし近習きんじゆの壮佼すやうけう等ら、那支なせを忘わす能よく婿むことて送代そうだいり小護せうごし、傾かたけ宣のたまはる者ものより、遂つひに其美そのみを停とどめられて歸國きこくを許ゆるしあり、且かつその時とき管領くわんりやう政元せいげんの當職たうぢやくと罷なげられて本領ほんりやう阿波あはに在あり、八犬士はつけんし皆みな幸あゆみ恩怨おんえんの間まを免まれて、安房あはへかゝり、必かならずに伏姫ふせひめの神號しんごう勅額ちやくがく、大禪師おほのせんしの僧官そうくわんの思おもふ優ある朝恩あそんる者もの、終つひに勇ゆうまきまきする。廣當直親くわうたうぢきんの別わかれを告つげ、次の日ひ二條にじやうの歌うた処ところを立たて、伴當ばんたう夫役ふやくを従したがひて、岐路きじよと安房あはへいそぐもの、大禪師おほのせんし不做ふされしと敢あて、敢あて心こころを、あらば、あがると思おもひ、且かつ、任而にんじゆ這一僧このいちそう九く十じゆ、主僕しゆぼく百十ひやくじゆ數名すうな、東とうと投なげて、其路そのぢよ只ただ一日いちにち、又また日本にっぽん歩あむ

夜ふ歇り。美濃の垂井を過る時大塚信濃へ、大照文と自餘の七武士  
 等と喚留りていさう。這里るる金蓮寺へ在昔嘉吉元年五月十六日春  
 王安王君御事ありし時我大父大塚匠作三成其御終焉を目撃す。堪む。其  
 兵を敵多し血戦して竟に戦死してける。我父番作一成の當時少年多  
 けれども忠孝武勇小匠にかねば當日群集の中在り。親と援けし跳出  
 け。両公達を會ひあはせり。牡物崎某甲と敷き捕りて。春王安王君の御首  
 級と父匠作の首と奪つて。多兵を殺脱け辛くして。信濃路を走り。御獄  
 大井の間。小道場の墓所。小三級の首と情地。小瘞めなり。我身も  
 歳より。時親の昔話。少知り。今料らば。這地を過れば。誘立り。故  
 中迹を見て。とくべし。とゆふ。大家諾て。あつべし。と心づ。と。兩三町中て。こ  
 け一座の梵刹あり。其二門。掲げ。る。遍額。金蓮寺と書いたれば。向ても

ある。茲にけり。と。大塚と先ゆく。大家寺内へ入る。多き。時。但見東。けり。  
 あり。年。齡。四。十。有。餘。る。賤。ま。の。装。部。俗。々。兩。箇。の。小。瓶。と。膝。着。る。初。を  
 肩。小。ち。掛。つ。凍。く。程。八。丈。五。寸。見。平。け。ん。之。走。る。近。づ。く。大。塚  
 信濃。ふ。ち。向。ひ。く。恐。る。く。向。ひ。え。這。刀。林。の。御。中。小。安。房。の。里。見。殿。の。御。家。臣  
 る。大。塚。主。の。在。さ。む。や。と。向。て。信。濃。の。訝。ら。る。け。り。何。事。ぞ。汝。の。向。ふ。大。塚。信  
 濃。の。我。と。名。告。不。件。の。賤。ま。の。奇。也。と。合。笑。て。や。と。初。と。下。り。て。跪。居。て  
 信。濃。の。告。る。や。最。卒。介。の。い。へ。も。小。可。の。信。濃。の。大。井。の。驛。小。程。遠。く。小  
 條。村。の。社。客。あ。り。息。部。局。平。と。喚。做。ま。者。で。い。え。言。長。く。も。聞。食。ね。鳥。餅。が  
 あり。説。く。小。可。が。親。に。け。り。息。部。是。非。六。る。信。濃。團。の。人。氏。へ。井。丹。三。直。秀  
 主。の。老。僕。也。嘉。吉。の。乱。小。殉。死。して。人。の。譽。れ。れ。ら。れ。當。時。小。可。の。總。角。少。母。と  
 俱。不。舊。里。在。り。寒。農。で。い。へ。母。の。世。在。り。時。も。主。家。の。後。の。事。と。い。は。る。知。れ





金蓮寺の  
門前小成孝  
向平小逢ふ

いひいふ去る夜三夜靈夢の告ありけり。辟言の甲曹ある一個の老武者我枕  
方不立あひて我の嘉吉不戦歿ある。春王安王君の小傳大塚匠作三成是  
る。當日我子番作一成が忠義の擗に也。而公達の御首級及我首を埋く  
悠々の地方小在り然ども美濃の金蓮寺の兩公達御終焉の梵刹を置り  
那里へ返りまわらせむ欲き汝情地小主僕三箇の觸體と穿合りて垂井の  
寺へ齋願也其日必我孫ある里見の家臣大士の一人大塚信濃成孝と喚做ま  
者不逢ふとあり其折這誼と他小告る成孝宜く計ふべき疑ひそとせよと  
示さるこ一度のるるの靈夢之夜小及びいけらるるも聞れむ件の如く做て齋願い  
ひ小果して刀袷不逢まらる。噫奇なりとも異かりける。神謀小いむむと云老實  
達て告るゆる成孝の愕然とらち敬馬に且欬びて原未汝の然る者へ去れ  
我も亦昨夜の夢小其誼と親の告めいと見し靈夢とありき泡沫夢

幻の果敢を瀧ひて死あらわれ人更説も知せざりし小自他夢の異るべし  
今何を疑ふに誠小不思議の事なりと答て馳て自餘の犬士と、大照文を  
見たりて各目今少る如し咱も當寺の住持小告て。而公達と我大父の觸  
體を改葬るべし。されども律令改葬の子孫必二百の忌あり伏姫神の勅額小  
然も憚りある小あら各位へ先へ小咱もこの誼を做し果して後よりこそ  
ゆくべしと父を七犬士等へ少あをいふて然る僻とせん和殿の大父の我門が犬  
父も異なるに然れ共侶不逗留して其葬と帮助てんと談まれか、大も俱小  
いさ。佛事の是出家の役へ見捨てゆく足はゆりて咱も俱小と談し洗  
ると照文の推禁めて所詮甲しといふより皆這驛不逗留して其葬並果して  
後小俱小かろくとも既小御名代の事果され憐る小似て合ふるは咱も  
勅額と守り奉りて當驛の歇店小在り這美いふと談まれ大家家守り點

頭て其議説ゆて穩便と信濃の禁めりける開の辱事なり今  
又人数不して寺内に入りて反て事の障りありん各位の先宿投て事の成る様  
の相違の這局平と伴當四五名を從へて入りて寺僧の相譚交しつる大家  
諾ひて先紀二六喜勘大等不吟附て好宿執れを遣りけり介程不犬塚  
信濃成孝の局平等と從へて金蓮寺の玄關の呼門つ則役僧の面談多  
告る不追葬の事不及へ役僧の答難て馳て客殿の請待しと茶と看  
ゆると芳程不任持と對面當下成孝の任持の向いて告る右の如く且  
局平が靈夢の事又明々地説示せ住持の少々感歎多那兩公連の  
こと然も京都將軍家不憚りるはあねども既許すの年と歷て三四の  
御代代らせぬべ今ハ已むもいづも心づいてこそいふれとのふ合不障りるうらうら成孝  
歎びて又さう唱る去向をいそ者且一路の主僕百二十名あり開が中不

七人の咱等が義兄弟で一個ハ今番京師で大禪師不做され方、大と喚  
做と師父と作り皆葬事と次員とを俱に當驛の客店不在り尚日影の高  
かる今より改葬せまき欲まの誼を許容れぬかと請れて住持の推辭不  
由る開の性急なる事より旅中とあれ是非不及左も右も終ひてんと  
答て侍坐の役僧不事恁々と吟附て辭して奥へを退りける當下成孝の伴の  
一義と大禪師と七犬士等不告んとて玄關不出て多々伴若黨不吟附て驛の  
客店へ遣り却局平が齋しる而箇の小瓶の初を解せ情地不蓋を用いて  
見る不果して一箇の小瓶と小瓶兩箇の觸體あり又一箇の小瓶と大人の觸體  
ありこれ哀悼の涙胸不満て泣然と然氣多き多早く蓋をうち要復しそ  
故の像不掛る索と局平不修せ然而役僧不觸體の事と告はく指揮不  
任せぬ役僧則心づいて一兩個の道人不兩箇の小瓶と受合をらせ馳る本

堂。不存。三。居。小。程。大。阪。大。江。大。山。大。村。大。川。大。田。大。飼。号。の。七。  
犬。士。の。大。禪。師。を。先。立。て。伴。當。夫。役。過。半。を。り。て。金。蓮。寺。の。大。師。の。道。人。  
案。内。し。て。客。殿。を。造。ら。せ。成。考。是。を。坐。と。讓。り。て。改。葬。の。事。急。を。と。速。る。り。  
多。を。告。知。ま。れ。大。家。教。が。開。か。中。の。大。の。然。と。と。微。笑。て。酒。家。の。使。の。來。り。と。  
軀。て。其。誼。を。ん。と。思。ひ。く。夫。夫。役。号。と。さ。お。て。來。れ。り。他。号。の。課。て。故。墳。を。穿。  
起。さ。せ。ん。為。る。に。と。い。ふ。同。役。僧。の。又。遽。く。出。て。來。り。衆。人。の。う。ち。向。て。長。老。諸。彦。  
光。臨。を。展。す。く。ま。住。持。拜。面。を。い。れ。る。法。事。の。程。を。い。へ。葬。果。て。見。參。を。下。  
各。礼。服。の。御。准。備。い。や。と。向。へ。成。考。然。し。衣。裳。の。皆。准。備。あり。の。を。せ。め。と。促。  
其。役。僧。の。向。と。上。心。も。果。を。走。り。く。奥。へ。退。り。け。る。然。而。沙。弥。喝。食。号。の。大。及。諸。  
大。士。の。茶。と。看。め。果。子。と。薦。る。程。の。讀。經。の。法。師。号。と。本。堂。へ。取。聚。る。鐘。と。撞。鳴。  
其。沙。弥。号。の。仍。ら。る。り。の。け。り。登。時。八。犬。士。の。伴。當。小。持。せ。る。祇。裏。と。解。開。け。て。

て。多。く。合。せ。ま。ま。白。麻。の。衣。麻。の。社。禰。を。被。更。れ。大。の。素。より。袈。紗。法。衣。を。  
又。執。袈。ふ。と。も。る。犬。士。と。俱。小。身。を。起。し。て。齊。一。本。堂。へ。赴。り。俗。と。離。れ。て。  
客。坐。小。居。り。施。主。の。成。考。と。首。を。て。犬。士。号。程。を。列。坐。せ。り。既。而。讀。經。の。法。  
師。十。口。許。同。色。の。袈。紗。法。衣。を。穿。ち。連。立。て。出。る。先。本。尊。と。膜。拜。を。せ。  
經。案。と。並。べ。る。左。右。二。側。小。連。り。立。て。銅。鑼。と。鳴。り。木。魚。と。敲。り。梵。唄。數。聲。  
唱。る。程。の。徐。に。出。る。住。持。の。老。僧。萌。葱。紋。紗。の。僧。衣。の。純。絳。の。錦。綉。の。  
袈。紗。法。衣。被。て。多。小。拂。子。と。採。れ。り。け。左。右。小。徒。各。兩。個。の。沙。弥。あり。各。爐。と。執。り。如。  
意。と。執。れ。り。住。持。則。佛。前。の。倚。子。小。凭。り。て。兩。箇。の。小。瓶。の。水。を。向。ひ。て。眼。を。閉。じ。  
念。誦。と。凝。せ。高。足。發。聲。の。法。師。其。間。每。鏡。鉢。を。う。ち。鳴。り。て。既。而。讀。經。を。  
促。各。衆。僧。各。經。卷。の。緒。を。異。口。同。聲。誦。出。せ。住。持。も。俱。小。聲。と。合。せ。て。  
讀。讀。と。半。响。許。大。も。俱。小。是。を。帮。助。て。同。經。同。調。聲。と。惜。ま。清。亮。

八犬傳九卷卷五十一  
土  
○大徳寺

と高く高けれ。宛春の百千鳥百轉のどの中お加稜頰如の聲ある如く清濁  
雲壤争難る。衆僧憶志暗と舉て驚見て憚る色あり。憊而讀經  
果一が住持の倚子と退けて。衆僧と共侶お又經を讀柳兒と鳴りて  
運るの許り番既お輪り果一時住持則本尊と膜拜して香を焼じ佛  
足を戴念に訖り退て小瓶の觸體お廻向多水とを賜樹葉を採りて  
散し眼を閉合堂して。春王安王弟兄と大塚匠作の法師を喚起し且菩  
提を唱へ施すの功德を讚し。更お諷誦文と誦讀し訖て徐お退て躬  
胡床お着く程お高足發聲の法師鉦をうち鳴りて高六字の各號を唱  
れ。衆僧俱お聲と合て連り念佛を程お一僧身を起し來て施すお焼香を  
薦れ。則成孝と首老。大士等皆送代りお杖と出て焼香礼拜して退け。最  
後お、大も焼香を是て法事果おけり。登時住持の胡床を離れ來て先成

孝を向いて改葬の功德を稱えて更お、大お名對面して且の師兄を  
大禪師の高僧と合と美れ。導師お准と念ふべり。其義を後お  
知れ。憶志を無礼を仕らぬと勸解を、大いおあはれいり。其美お及ん。杜納の客  
僧の。那三觸體の和僧の道德お縁さる。先追葬といひせし。まへと  
お住持の志と。辭して方丈へ退りけり。憊而大塚信濃成孝の伴若黨  
潛地喜勤太と息部局平と召登りて。兩箇の小瓶と合下させ。却後僧お  
案内と請へ。役僧則先お立。春王安王の軀を瘞り。舊塚の邊お造ら。諸大  
士。大も成孝と共侶お仍て是を見る。お只一兵の土饅頭の。朽る。卒都婆三本あり。  
成孝の亦諸大士の。愀然として。懷舊懷古の憂情お勝り。然る。而在る。べんお  
あはれ。お夫役お吟唱して。伴の塚を穿起させ。お夫役お皆おあはれ。則當  
寺の道人お鋤秋葉。焚け。借出させ。力と勸して。穿程お既。や。日。昔。春。一。か。る。

犬士等則役僧薪材を乞ひて無火にて夜作の便も故骨不速な時法師四口許出で或は線香を焼成り木魚を鳴らして異口同音小讀經を程の、大も亦復是を幫助讀と約莫半响許既も讀訖て先春王安ま觸體を斂めたる小瓶を穿下さるる當下法師の、大引導を請ひて大謙讓三番申して饒舌くもあつたに竟左の蕉火を採り右の木鏝を推して杖を穿らちせ溢て高く引導の語句を誦して偈を唱へ喝を吐く其聲の妙なるの骨相感あり猛かた且其眉間より毫光粲然と散徹して宛空を照まふ似れば金蓮寺の法師の、這光景小駭嘆と敬服せざるをけり、這時匠作三成の穿り距て西七八歩申て夫役爲是を穿果しかば戌孝則其觸體と安葬して四僧經を讀、大引導を其所作始小異なる事既も果しかば夫役爲はく、採りて之箇の葬穴を埋る小穴穿る時よりも最又無て故の土饅頭不做しかば寺

僧等三箇の窳都婆を建、香案を備ふ小犬塚と首を諸犬士都て焼香果て却夫役爲を登て、大と俱小寺僧引れて又客殿かゝる程小夏の夜も短くて道人が撞坐を初更の鐘鐺々々登時役僧出で、大犬士等小齋を薦む夜分るれば非時と唱ふ湯淘飯るとも、三四の菜蔬あり伴當夫役局平をも皆從者子舎を取合せ、夜飯の款待小遇るる所、當下戌孝の諸犬と俱小役僧も向ひて改葬非時の款待を謝して且の會、我們の這回京師より神號の勅額を衛なりて安房の柏村へ還者へ介る小改葬の三日の已心ありその故一路人蚤崎照文と喚做ま者伴當數十名を從て守て本驛の客店に在、我們主僕三十餘名今日葬事小觸者へ他と同宿まへり勿論那三觸體の爲、今日よりあて三日追薦の佛事とせま欲ま殊小自由なれども三日の讀經果るまで、我們主僕三十餘名小止宿と饒しめりや饒され難ハ驛内に之別、歇店と未むべし



感あてよ。折々ありける。と異口同様。不稱れ。成孝の然んと。応て。件の金を受  
戴。懐る。勅。吐。不。楚。と。斂。めて。答。る。事。宜。一。心。異。體。る。義。兄。弟。不。あ。り  
其。何。人。の。よ。我。を。資。助。し。開。も。亦。館。の。賜。を。信。む。り。没。ら。ぶ。べ。れ。ど。這。儘。先。預  
て。ん。と。答。て。感。嘆。を。り。ける。這。時。大。ハ。廁。小。登。り。て。姑。且。這。里。在。ら。け。れ。ば。後。小  
大。の。受。を。受。知。る。べ。し。折。々。又。撞。出。せ。人。定。鐘。の。响。く。を。沙。弥。道。人。出。て。來。て。為。小。政  
帳。と。垂。れ。臥。簞。と。設。て。退。け。六。大。犬。共。侶。小。就。て。枕。就。せ。不。ける。の。次。の。朝。大  
犬。士。多。俱。小。風。起。出。て。齋。も。既。果。折。役。僧。が。告。る。事。昨。宵。示。さ。せ。ぬ。り。受。を  
石。匠。野。見。六。許。の。遣。し。け。り。野。見。六。も。自。今。地。車。二。輛。の。墓。石。多。く。積。登。る。車  
奴。五。名。六。名。の。牽。せ。來。て。御。客。人。大。塚。主。小。拜。面。せ。ま。り。と。い。け。り。あ。へ。召。を。い。ハ  
ん。と。お。成。孝。訝。り。て。开。心。の。心。の。事。を。以。敷。し。か。ら。召。せ。ぬ。と。心。を。ま。れ。役。僧。の  
道。人。を。招。び。各。て。那。野。見。六。を。召。せ。け。り。姑。且。と。石。匠。野。見。六。も。亦。茶。深。の。絹。の

衣。裡。外。套。を。疊。し。隨。手。握。り。持。て。客。殿。の。邊。へ。先。役。僧。の。會。釋。し。却。次。の。間。小。跪  
坐。小。可。の。宇。賀。地。野。見。六。也。の。大。塚。様。の。在。る。事。と。問。成。孝。找。せ。ぬ。大。塚。信。濃。ハ。則  
我。汝。找。を。知。る。欲。と。問。返。せ。野。見。六。も。膝。を。找。せ。近。に。然。今。より。三。十。日。有。餘。前。の  
日。年。紀。五。十。九。九。一。個。の。武。士。我。店。舗。未。來。の。三。座。の。墓。石。と。詭。あ。る。石。の。小。大。小。注。文。の  
是。の。當。驛。内。の。金。運。寺。不。建。る。墓。表。ど。か。七。月。某。の。日。ま。の。遲。滞。り。造。り。出  
る。其。折。安。房。の。里。見。の。家。臣。大。塚。信。濃。成。孝。と。喚。做。武。士。の。あ。ら。る。事。あり。と。  
墓。石。の。價。と。遞。與。と。心。の。事。と。宣。甘。々。小。可。を。仰。養。り。ぬ。然。れ。ば。此。の  
内。金。を。賜。ら。る。作。事。の。創。を。致。し。か。ら。其。金。子。携。方。の。や。と。問。ハ。那。武。士。沈  
吟。し。て。否。と。今。日。我。懷。不。財。也。然。が。を。遲。疑。を。く。べ。と。い。ハ。懷。と。撥。粉  
で。て。純。金。の。小。鐔。二。枚。と。又。純。金。の。兩。箇。の。靴。と。合。出。し。て。と。小。可。不。渡。  
宜。や。と。三。箇。を。純。金。の。價。十。餘。金。不。當。る。東。西。を。權。且。是。を。留



措ね大塚が来ぬふ及びて墓石の價を取寄折の互易ふこととせけれと言正  
 首の課され小可則心為果ても実一通を寫てまある時其姓名を問け  
 る否否我名は生るふ及せ徑大塚信濃と録ね那人必知るやあらんと解  
 示し々も実を受合りて飄然とて出る必ぬひた徳而昨日の細工成就の好  
 束の目でみ形如く彫果て施主方と候程小昨宵御寺の役僧様より御  
 使を下されて客人大塚主の所要あり翌の朝用はあふとあり必是訛ら  
 ざる云箇の墓表のさるべと小可早く心泊て皆地車うち載て牽せと参み  
 ひぬと言詳報一が大塚が疑惑のさる諸大士、大も訝りて俱眉を巻擧  
 げ當下成考の又野見六うち向ひて汝が今告知せぬ其事の實さるべも  
 のま心ゆぞ那内金の代受と銘と鞆とて来ぬやと問れて野見六心も果  
 ぶ懐紙をうち開けて開るふふとらつ件三種を渡せ成考受合りて左頁右

見ても思ひぬ自餘の大士示しとらる見ぬ這小鰐の童佩をあらんを鞆の  
 桐葉の一字と彫る是則今我佩る短刀の鞆似たり這短刀の事いも大  
 川をよく知れ昔大父匠作翁の世小在せりし時小母龜條刀自取せぬ  
 去と故ありて我成考の傳へる桐一文字即是  
 暗記の失る皆當小 自他鞆の相似さる要さるる也と沈吟々々役僧小向ひて  
 言卒介あひへも當山の宝藏小春王安王君の像見る短刀の形や且當言這  
 寺内之戰死ある大塚匠作三成の軀いふ小なりけ且其折三成の身小着る  
 餘衣身甲大刀など藏められぬやと問へ役僧も沈吟して否大塚翁の亡骸の  
 當時總大将清方主の下知ありて市小垂果らると傳へるの開が大刀などいへ  
 但春王安王君の短刀の今も藏りて宝藏小在り只年の六月毎小出して虫を拂ふ  
 のとこの成考うち書てあるは最自由さる其短刀と見まふなりいで方丈へ願せ玉

以て疾一見を饒りぬ。と請れて役僧推辭由る。心とまら退れて俟る。と  
 半响許。徳而住持の老僧。那両口の短刀と表皮の儘。役僧小持。客殿へ  
 出て来り。成孝翁も向いて。只今何う奇事ある。一見と請れる。那両公達の  
 短刀と稍合。坐させぬ。といひ。役僧心切。卒と遮與。短刀両口と成孝翁ら  
 受合。もて表皮の紐と解開。合。出。て是を見る。是則。右も挿さ。長短の  
 共。一尺有餘。表装の同様。と。両口も。鑿。され。疑。訝。と。住持と役僧  
 示。して。この。短刀の。鑿。あり。素。も。徳。而。い。や。と。問。れて。兩僧。驚。見。て。不。言。鑿  
 あり。程。の。失。け。不。思。議。々々。と。心。り。尚。疑。ハ。解。さ。り。然。ハ。大。も。諸  
 大士も。俱。も。あ。ろ。悟。れ。も。安。定。の。ゆ。り。當。下。成。孝。膝。拍。鳴。り。是。を  
 思。ひ。合。せ。れ。置。義。不。這。野。見。六。小。三。箇。の。墓。石。と。詠。て。為。り。と。武。士。正。是。我  
 大父。大塚。公。有。の。亡。魂。の。假。頭。れ。る。也。と。あ。む。む。然。ハ。と。あ。れ。兩。公。達。の。鑿。を。前

價の代。ある。且。這。鞘。の。土。蝕。あり。意。余。我。大父。の。腰。刀。の。戦。死。の。折。紛。失。て。羊。来  
 土。中。小。埋。れ。る。其。鞘。の。と。合。せ。れ。今。其。所。を。知。る。必。を。遺。憾。と。最。も。怪。し  
 る。と。い。ふ。大。も。諸。大士。も。住。持。役。僧。野。見。六。も。寔。然。然。也。と。感  
 嘆。せ。る。徳。而。成。孝。の。件。の。二。鑿。を。故。の。如。く。兩。箇。の。短。刀。の。柄。下。小。返。納。め  
 桐。一。文字。の。鞘。を。留。り。て。短。刀。の。と。返。し。て。目。今。見。聞。ぬ。身。一。大。奇。事。ゆ。い。へ。る  
 願。ふ。其。短。刀。の。と。雙。を。寺。宝。と。記。録。載。せ。せ。り。と。負。め。住。持。と  
 異。議。も。其。心。の。法。是。讀。經。の。程。も。退。り。准。備。を。あ。べ。と。其  
 短。刀。兩。口。を。役。僧。小。受。合。せ。て。辭。し。て。奥。へ。退。り。徳。而。成。孝。の。又。野。見。六。向  
 いて。い。ふ。汝。も。既。知。る。如。く。汝。も。墓。碑。を。作。ら。せ。り。我。大父。の。靈。を。事。怪。れ。過  
 た。れ。も。倘。其。事。微。り。せ。い。と。今日。速。に。墓。石。を。建。る。と。い。ふ。實。大父。の。賜  
 る。哉。都。の。價。の。幾。許。と。向。野。見。六。然。ハ。三。箇。の。御。墓。の。石。の。價。と。細。工。料。と。相

共十五金ありて美事なり。然りとす成孝點頭て。則圓金十五枚を合す。別一  
枚と相添て是を野見六の合する。汝始より疑ひ。那詭を果せ。我の意  
外の便宜をなす。其一兩の賞錢を以て野見六悦ぶ。堪む。有るが死す  
辱に御好意を受ま。心と成て金を財裏小藏めて。卒や御墓を建ゆ。と  
ひつ。軀て先立成孝の先其石と見んと。俱身を起さ。大禪師もうち連  
立て外面投て。必おけ。姑且て道節がら。哥を唱へ。思ふ。昨日の奇事  
去歲の四月結城を法會の折。孝基朝臣の御墓石を造り。那十僧の奇  
事。似て。二の町る。玲。か。を。智推禁めて。然る。大山甲と。其  
事相似て。其趣。同。是。則正對。知。又。大塚の孝子。孝王を感  
得。其名。成孝。是。孝感。孝。是。亦勸懲。係。所。思。自  
も。只相似。と。目屎の古ぬ。る。阿々。道。即。自

笑して敢又掛念せむ。自餘の犬士と俱ふ。大坂解ゆ。穩當る。誘。墓  
石を疾見。い。俱。刀。引提て。外面。立。徳。而。八。大  
禪師の野見六。造。做。たる。君臣。三。個。の。墓。碑。を。見。る。春。王。安。王。の。墓。表。の。石。の  
最上。知。工。も。精。前。代。當。寺。の。住。持。の。命。弟。兄。の。法。號。を。彫。做  
て。嘉。吉。元。年。五。月。十。六。日。と。勤。た。二。甘。全。の。墓。表。の。今。も。垂。井。の。金。蓮。寺。の  
在。り。又。大。塚。三。成。の。墓。表。の。石。も。劣。り。形。状。小。さ。是。亦。只。義。烈。塚。翁。之。墓。と。勤  
る。這。墓。表。の。今。有。と。知。然。大。塚。翁。の。諸。大。士。大。禪。師。の。共。侶。是。を。見。て  
是。亦。亦。那。靈。の。心。用。い。所。後。と。思。へ。之。感。嘆。を。公。程。息。部。局。平。も。夫。役。も。  
件。の。奇。事。と。知。り。駭。嘆。せ。る。招。き。も。出。て。壞。と。運。び。墳。と。築。た。す。  
野。見。六。を。報。助。か。半。日。る。三。墓。を。皆。建。果。て。野。見。六。を。辭。去。り。け。り。  
折。々。追。薦。の。讀。經。を。と。す。諸。大。士。大。衣。裳。法。衣。と。更。り。て。本。堂。列。坐

去つる昨日の如し住持の導師を、大に譲れども敢て、大に猶容坐するを助  
聲あるも、這次の目もかゝる如し、二日ある追薦の佛事果し成孝の墓詣  
香と焼た花をも賄け又客殿に退治て義兄弟等と商量を役僧に招けよ  
せ目録をもて布施を渡さ改葬二日の法事料金十兩主僕三十餘名二宿の  
房錢金五兩春王安王并二成の祠堂料金二十五兩通計五十金を役僧見  
し、執ひ受て退治て住持の告で照書一通を呈覽を其後又成孝の局平を客殿へ  
招けよその如し、汝の大昨日より、舞い去んといひかど我留存するに案内を憑ま  
思へ、抑汝の老實ある徳よと、料らをも二彌腰と改葬をけ、執ひ亦いへる  
らに、是を庶賞取まると、圓金二十枚と與れ、局平の憂りと、天の救ひ  
地の喜びて受戴れ、懐へ楚と斂めて、然るものせせり、大に大金を賜  
て、眞加あるを胸安ら、是を田圃と買殖して宅眷を優ふ養て、那里の

あつとも、御導を仕らんと、憚るを成孝も笑て、否と、異なる路あり、改葬二日の  
今日も、果然、明日より東へ還る序、小篠村へ立りて、我外祖父母并丹三  
直秀翁夫妻の墓の詣り、欲し其頭の案内を憑の、局平と申す、易  
とも、易く死と答て、躬く伴當の居る、塙所へ退り、當下成孝の老立る者  
而、二名を召と、他を穿り、墓碑を建、觸穢を致さる、其老實を、押  
込を巻言て、身淨の折乾、小方金十片と、命らせ、夫役を、皆、躍りて、教  
る、左右の程、小日の暮、大に、住持、明日の別れを告て、今宵も亦  
這精舎、明多、詰朝、王僕、夙く起出ける、役僧浴室の準備あり、大に、大家、送  
代、浴を、已、心、身の、身を、初、時、大に、潜地、喜、勘、大に、照文の、宿所、遣して  
今日、這地、立去、死、改葬、及、墓石の、奇事、告、照文、其、身、身  
装して、俵、大、諸、大に、主僕、早飯、果ると、躬、故、之、初、装と、整

おのり

おのり

おのり

住持役僧等不別れを告て伴當主役と局平等を將く金蓮寺と立去る百と  
三町お過る照文も亦紀二六以下の伴當那敷額の長櫃と昇せ。這方と投て  
來ぬふ逢ひけり。當時迷お近づく隨一霎時路傍お立立。會話をあり。開か中  
照文今朝夢知る。那奇事と云て大塚お孝感の幽冥通等と稱賛を成孝の  
亦小條村へ立も多欲まのま告り皆おくり。是より亦主僕故の如く百十數名  
多一怒夫役等お替りて長櫃と昇り徒おのり。三日お未下る時候小條村  
おられ。局平の柩華庵の墓所。井氏夫妻の墳墓。案内を奴隷の毎と夫役  
おのり。惣て柴門の外面お在り。又局平の水汲櫃を求めて件の墓お建る。當下  
成孝の杖と其墓と見る。親の話説お少く。必お何人の建らん。三重の墓石あり。直  
直秀夫妻の法號と歲月を勒し。開か右の方の昔年父香作が那三首を。情  
地お瘞めける処。曩局平が穿起る。壤の尚乾おせ。土澄迹お似り成孝の

おの墓をを訝り。跪合堂にて念下果て退げ。自餘の犬寺、大禪師も迭代お  
廻向せけり。徳而成孝の又局平と案内お。柩華庵お呼門て。則庵主お對面お  
より村落の小道場お。客殿お。客を容るお足らされ。大と自餘の犬寺お退  
て外面お在り。或の庵の檐廊お。屍を横るお。裏面お。庵主と同宿の老女僧お。居  
居れ。當下成孝の庵主お向て。在俗の安房の里目お。家臣お。大塚信濃成孝と喚做  
者。當所お墓お。井丹三直秀翁と其孺人の我母の二親お。外戚之偶。這地お遍  
る。参詣お。お告て香燭の東金一枚可。呈され。庵主の満面お。笑れ。受戴  
佛前へ供て。却お。那井氏の。昔當庵の大檀那。でひ。喜加吉の。乱那  
家滅亡て墓表お。前代の庵主の時。幾稔お。縁て。這庵室。再興の折  
件の墓も建。昔年蚊牛と喚做る。庵主柱死。庵も共お焼亡。お。久く  
住でひ。前代の傳真庵主の拙僧の師お。原和君。那井氏。御外戚お。飲

尚青年不見えぬ。御孝順なるかき。と云間。同宿の女僧が廿余と着て薦ゆけり。當下  
 成孝の茶と受飲。列々と四下を見ん。思ふ。昔我父少かりし時。這庵室に歇を投  
 め。破戒を斬る庵主を誅して。料も我母刀自。各告會あり。是天縁の盡き所  
 嬬仗の創成り。を我總角の比親の夜話。夢ありと思ひ。今其庵を立。後の  
 庵主。逢ん。一善一悪人。同か。去一。来其地。同。浮世。環。似。り。と思ふ。心と  
 父。の。を。徳。の。故事。人。を。知。ね。れ。る。を。辟。の。下。の。倚。る。敗。刀。一。口。の。柄。と。鞆。の  
 朽果。れ。れ。も。由。来。あり。ぬ。ぐ。思ひ。ぐ。庵主。の。向。ひ。て。件。の。刀。の。故。り。や。ある。と。尋。る。庵主。を。合。て  
 否。那。敗。刀。の。然。し。故。も。ひ。る。ま。十日。有。餘。前。の。夜。の。事。を。只。今。詰。あり。墓。の。邊。を。穿  
 起。者。あり。歎。と。わ。り。て。其。頭。の。土。の。異。れ。松。僧。是。を。見。て。思。ふ。ち。あ。る。備。柱。死。せ。し。人。の  
 亡。骸。の。情。地。あり。と。來。て。埋。め。る。人。の。所。為。を。や。と。尋。思。ふ。ぬ。れ。い。ち。も。措。れ。秋。金。の。く  
 其。頭。を。穿。返。し。て。見。て。ける。那。敗。刀。の。出。る。の。白。骨。の。あ。る。と。刀。の。中。の。く。く。在。り。

朽れ。錢。の。る。ね。ど。好。者。も。あ。る。と。售。ら。げ。と。思。ふ。と。報。る。成。孝。も。思。合。ま。る  
 と。む。を。然。氣。の。せ。件。の。刀。を。請。合。り。是。を。見。る。実。の。市。中。の。幾。稔。歎。埋。れ。て。在。り。け。ん  
 表。装。の。皆。亡。れ。も。鐔。と。刀。の。朽。も。甚。且。柄。下。の。四。字。銘。あり。と。相。一。文字。と。讀。れ。悒  
 然。と。歎。馬。く。ま。不。且。感。且。終。ひ。て。肚。裏。の。思。ひ。原。来。這。刀。の。我。大。父。戰。死。の。折。り。も  
 腰。の。佩。の。ひ。と。我。父。其。首。級。と。共。の。奪。合。り。と。又。蝨。く。三。兵。を。殺。脱。て。其。首。と。共。侶。の。那。里  
 埋。め。あ。い。け。我。の。親。の。話。説。の。首。級。の。事。と。大。刀。の。事。と。言。れ。も。這。大。刀。の。あ。る。か。の  
 折。の。埋。め。あ。い。不。疑。ひ。然。し。そ。の。あ。る。比。大。父。の。靈。の。前。價。代。の。野。見。六。不。合。を。言。ひ。る  
 鞆。の。則。這。刀。の。鞆。を。是。も。亦。自。然。不。疑。ひ。今。正。可。知。る。娘。と。云。と。肚。裏。の。自。問。自  
 下。在。し。と。ん。這。故。の。局。平。の。知。り。穿。出。さ。り。け。ん。及。て。庵。主。の。獲。め。せ。れ。て。我。視。不。被。不  
 思。議。と。信。と。知。ね。ど。那。折。の。金。蓮。寺。へ。寄。進。せ。故。の。と。這。大。刀。の。柱。衣。不。做。を。便。よ。き  
 事。の。暗。合。是。も。亦。自。然。不。疑。ひ。鞆。の。出。處。を。今。正。可。知。る。娘。と。云。と。肚。裏。の。自。問。自



おんげあ  
拓華庵小  
梯順効力  
奴見走

答と云ふ出まき然氣も又庵主の向ひに這大乃咄等買とるべし價何なるか  
 と向ふと庵主の向ふも否價の愚僧も知悉二百まれ二百まれ宜く取せぬと云ふ成  
 孝懐より命必ま小方金二片を鼻紙より載と卒と庵主と與まの庵主と受  
 悦悦小堪もある過分る造化と謝して硯と鬼と受合手實と成孝の寫て  
 渡る聲高やふ尼前より其頭不在刀袷們の一路人をもむむの推並て茶をま  
 ろらせと追徒數待喋々を女僧の答て否水も汲り来てんと桶を引提て  
 東の方へ向ふと成孝の訝と又庵主の向ひに這庵の井の邊と向ひに成孝然  
 素の這庭の東の方の清泉あり二六時中涌出て水の富ひひ十稔有餘前の秋酷  
 く地震一時上の山も大石滾隊と井幹とら砕れゆるる揺入て井と空にけり  
 是より水と失ひ今で四五町東も石滴を汲合りのと告ると成孝も驚て井を不  
 便るとる然も庭の樹枝敏く刺東と大石の空れま這坐席の薄層にも

故あるかるといふも又其石と見て檐廊の尻を掛る大田豊後と喚被て可々よ和  
 殿の脊力も那大石と北のくへ轉遣ん易るべしと梯順合矢と否我とくも  
 五大力士あつたれとくも思ひぬ何事も人の為成致不成致試てんといふ羅外  
 本套を脱措て野袴の稜社と刀と北月のく又統て身と起し其大石の邊に杖と近  
 け猶胸は是を計る石の高一五尺許上米と下太く徑四五尺もべけれ井を空  
 けりも理りも幾百貫あるやらん実の千曳の巨石も梯順の物も其集を掛て推  
 試る不齒の揺ぐが如揺めけり是で好と両と掛て曳と噓て換反其千曳の巨石  
 根を離れて只是白を輾も像く梯順のふ従と二三杖北のくへ寝ると楚と推居  
 け大石既小除れ迹も地泉漏出と庭も溢れて已され親兵衛道即現八兵衛の  
 其頭ありけ圓石の輕重或八九十斤或百斤有餘も最も易像も合と推聚  
 敗井の匣も居る立地も井幹成て其水溢れをりけ今這事の光景も庵主



ちん庭門の遺邊に在りける局平も目今水と汲合もてくろき多ける同宿の女僧さ俱不  
膽を後へ引提し桶と合を落せ断離れて澄と散水も四下の人さ碎易  
る大家吐と矢けり姑且も大村大学の大田豊後に向せりやう和殿并ふ大江大  
山大飼の力藝を見りて庵主の水も汲まざり是も亦仁の一徳也武の至りたり  
べし唯又又文を復泉の記と貽えんと墨筆の筆と抜出り徐作伴の古石の  
杖と近つた翰を添て石平坦る處へ記文一編を寫着るも毫も稿を設るも蓮の  
糸と引く如く速の綴り果て編左の歌とて賛あけり作者云這復泉の記は必僕文のべ  
且文の言くるを感ふその言ふともこれ漢文の看官の反てはせし思ふもあらん  
故に自らてあつた哉とん當下胤智是を見て大田が精力あ及ぶる大村の文も亦得  
かす然りと今言るる後悔りあり我も似而非歌と添んと隨即其毫を借て  
又一詠を寫し餘の六六士も興に乗きて各歌を詠出り次第と追を録あり  
か蟹崎照文も庭門より杖を入り列々と見り只管感嘆あるを親兵衛急喚

禁めて蟹崎瘦々々々和殿の何ぞ一歌と惜と俱も賛せざるやとりて照文頭紙  
檜と唯ちの風流疎れが這夥計入りかたりと辭を親兵衛諸大士もうち笑  
は敢饒さび井と好もあれもあれ這大皇國人も這大皇國歌と讀む水も栖む  
蛙花の鳴く鶯も少かるべしよとねくと讀られて困ど一霎時沈吟とて稍其巨石小書  
寫れが、大由杖と近つた多てよみ見て莞尔とちり笑て諸彦旨くおられる我も亦蛙も劣  
る歌ら歌のゆよまねも並べて恥と送まへりよとひりも且照文の筆を借て寫  
果て又いさろ各徳王と連ね歌を自筆ふりのあれども是鏤るるあはれは竟る風  
雨小磨滅して一句もあはれざるべし庵主の為か加持あてんといひ又石に向ひて數珠さ  
さりと推搦して一霎時咒文を唱へり一喝あてて退けける然らば復泉の記も跋替の十  
歌も後百年も厭あるも石面も耗むて幽に讀れりといふ是後話當下八大  
士聚合復泉の記を默讀し讀果る時大学の代りて賛歌と唯誦あり其聲明

あて妙氣の拙な歌も夢不堪方。自他迭々唱嘆して、欽びざるなりける。然其記文の  
 後詞章より、**十歌**ありて曰。文明十六年秋七月十六日大村大學頭金碗礼儀  
 が拈華庵主の爲に述ける復泉の記の後、**題**せ給一略人等が十歌一賛左の如く大  
 塚信濃公成孝の孝感懐舊の歌も亦中在り又礼儀を首とせ石面各即  
 事自筆なり。歌曰。

賛歌第一 壯士をが千曳の石とわたりてまみらた庵の昔清水なる  
 埋れ井の石蓋ひは漏く水あぢりちりの名も流さん 犬村礼儀  
 信濃多戸かゝ山ふまき神もあふまきまのや神ら及神 犬阪胤智  
 山と抜くちりもあふ健雄もが程まふ石のかたりのかゝ 犬田悌順  
 井へ成りぬひきごと汲め雲近く水遠かゝ山りこ乃庵 犬山忠與  
 無乳母の住中里ふまき見れば山とこら此宿もあふり 犬塚成孝  
 賛歌第二 犬川義任  
 賛歌第三 犬江仁  
 賛歌第四 大禅師、大  
 賛歌第五 延壽崎照文  
 賛歌第六

賛歌第七 犬川義任  
 賛歌第八 犬江仁  
 賛歌第九 大禅師、大  
 賛歌第十 延壽崎照文  
 善業不滅不断加持却火即滅八功德水平等利益とをありける。巧拙各差あれども  
 皆實詠ふわらぬものるけれ。知るも知らぬも推並て感嘆あるも故ある徳而犬塚成  
 孝の又庵室より坐して且局平と召と名を更庵主に向いてのや。嗚呼是純袴の  
 身と其地も相距と亦近くね。異日其墓詣に究てか。局平と見んぞ  
 那局平の我外祖直秀の老僕の子を。舊縁もい。今も後他を。當庵の施  
 主ふ做さ。といひ局平と召近づて。汝の素是老實家へ今もして我代を。井  
 墓を守り給。と。憑るも懐を搔撈りて圓金十兩を數ふと。先其五兩と庵主ふ

施一五兩を局平の與へり。其五金と這五兩の井氏の為の香華料。僧俗兩  
 個の等分て成孝の寸志の。とて合笑ひ庵主の局平の呆る。頭を擡ら  
 せ。麻の又思ひの。御向身。餘る。御恩を受ま。一。這里の御墓を  
 守れ。折々草と艾拂ひ。日小櫛と。何の費ある。然ると又這御金子を  
 受ま。た。と。推解の庵主も傳ふ。御向の。井氏の當庵用基の施  
 主。累代の檀那。其後を憐れ。先住の時墓を建た。況己心の香華を  
 這御施入の要。と。辭を成孝推復して。開其諺の。外祖の祀を人任せ。徳  
 の。及。枯者の為。宜か。柱を。愚意。従ひ。と。論。金子を受。合。是  
 別を告。相一文字の。大刀。引提。立。庵主と女僧の。満面春色。を。造作。物  
 体。一。脚。陰。水。の。千。葉。茶。蔭。の。花。も。用。せ。る。功。徳。廣。大。弥。陀。佛。々々  
 と念。送。れ。亦。局。平。も。只。得。金。子。と。受。斂。り。走。下。り。兩。折。戸。の。邊。小。跪。居。り。待

る。○這時大坂大江犬山犬村大田大飼の諸大士、大照文と共侶、既  
 門前在り成孝が身と。躬々。伴當。支役を。從。又復路次。の。を。當。下。局  
 平の天塚と留めて。小可。自屋。是。より。遠。御。暇。折。走。り。老。婆。不  
 御賜の。無井の首尾と報。他。音。外。前。より。茶。を。着。て。待。侍。り  
 卒立寄せ。と。請。成。孝。成。孝。否。と。這一路人。小。候。せ。那。里。の。を。れ。や  
 遺憾。思。へ。衣。袂。を。分。べ。と。先。伴。若。黨。小。吟。吟。推。相。一。文字。は。大。刀  
 考。免。の内。藏。め。ま。却。局。平。小。身。の。暇。を。令。身。躬。て。衆。人。と。俱。路。次。の。を。局  
 平。猶。去。難。て。後。小。跟。々。成。孝。の。諸。大。士。も。見。々。辭。謝。於。路。十。町。許。を  
 只。得。其。里。を。別。と。告。己。宿。所。還。り。局。平。並。石。野。見。六。の。這。下。話。説。る。  
 然。大。塚。成。孝。の。件。の。相。一。文字。の。大。刀。異。日。刀。匠。研。せ。け。素。より。雙。名。刀。を。れ  
 年來。土。中。在。り。か。聊。も。土。蝕。せ。又。の。則。相。一。文字。の。鞘。と。鑄。是。自。是

皆具して表装不むと盡き寺々。桐一文字の短刀と大小一對の各物も作りより。  
 後見孫を修へける故。或成孝の忠孝多。那村雨の大刀の如く久く其身は物も  
 作りと。毫も吝嗇の心なく。父の遺訓を果さんと成。氏主返りより。ひきかき  
 〇〇〇〇。於是小祖傳の各刀をゆり。便是天の配劑善報。善報。善報。以志物の損  
 益都皆善惡邪正。縁さるる。世人多く這理と知。口不美の利を欲す。善報  
 〇〇〇〇。貪りて厭食とるけれ。那身大損。〇〇〇〇。子孫小造りて禍あり。成失者。者。者。者。  
 〇〇〇〇。彼其身のまらる。子孫長久の至寶。〇〇〇〇。慎む。〇〇〇〇。間話休題。程小八。大士  
 〇〇〇〇。大照文。又五七日の旅宿と。武藏國豊嶋。〇〇〇〇。柴浦。〇〇〇〇。今東路の  
 〇〇〇〇。程菅菰大塚の御。大塚信濃。故郷。二親の墓。香華院。〇〇〇〇。又大川莊。〇〇〇〇。  
 〇〇〇〇。母の仍婦塚。〇〇〇〇。父大川衛士。〇〇〇〇。墓の伊豆の堀越。〇〇〇〇。又大塚。〇〇〇〇。大飼現。〇〇〇〇。八兵衛。〇〇〇〇。実  
 〇〇〇〇。父糠。〇〇〇〇。父の墓。〇〇〇〇。俱小立。〇〇〇〇。と。墓詣を。〇〇〇〇。後。〇〇〇〇。不轉。〇〇〇〇。香華料。〇〇〇〇。寄進。〇〇〇〇。廿

丹 35

まりけれ。既美濃路。改葬の觸穢。已。〇〇〇〇。淹留。〇〇〇〇。三日。〇〇〇〇。及び。〇〇〇〇。今。〇〇〇〇。又。〇〇〇〇。其  
 〇〇〇〇。頭。〇〇〇〇。路。〇〇〇〇。草。〇〇〇〇。と。喫。〇〇〇〇。親。〇〇〇〇。の。〇〇〇〇。為。〇〇〇〇。と。い。〇〇〇〇。ひ。〇〇〇〇。さ。〇〇〇〇。る。〇〇〇〇。公。〇〇〇〇。道。〇〇〇〇。を。〇〇〇〇。疎。〇〇〇〇。小。〇〇〇〇。私。〇〇〇〇。事。〇〇〇〇。不。〇〇〇〇。恥。〇〇〇〇。る。〇〇〇〇。似。〇〇〇〇。ら。〇〇〇〇。墓。〇〇〇〇。詣。〇〇〇〇。の  
 〇〇〇〇。事。〇〇〇〇。も。〇〇〇〇。異。〇〇〇〇。日。〇〇〇〇。の。〇〇〇〇。便。〇〇〇〇。宜。〇〇〇〇。と。俟。〇〇〇〇。不。〇〇〇〇。如。〇〇〇〇。と。思。〇〇〇〇。ひ。〇〇〇〇。久。〇〇〇〇。と。多。〇〇〇〇。皆。〇〇〇〇。共。〇〇〇〇。侶。〇〇〇〇。小。〇〇〇〇。件。〇〇〇〇。の。〇〇〇〇。浦。〇〇〇〇。邊。〇〇〇〇。小。〇〇〇〇。造。〇〇〇〇。り。〇〇〇〇。然。〇〇〇〇。し。〇〇〇〇。  
 〇〇〇〇。這。〇〇〇〇。二。〇〇〇〇。大。〇〇〇〇。士。〇〇〇〇。ハ。〇〇〇〇。次。〇〇〇〇。の。〇〇〇〇。年。〇〇〇〇。小。〇〇〇〇。至。〇〇〇〇。り。〇〇〇〇。義。〇〇〇〇。成。〇〇〇〇。主。〇〇〇〇。願。〇〇〇〇。ひ。〇〇〇〇。稟。〇〇〇〇。多。〇〇〇〇。俱。〇〇〇〇。小。〇〇〇〇。大。〇〇〇〇。塚。〇〇〇〇。の。〇〇〇〇。御。〇〇〇〇。也。〇〇〇〇。是。〇〇〇〇。等。〇〇〇〇。本。〇〇〇〇。意。〇〇〇〇。  
 〇〇〇〇。果。〇〇〇〇。せ。〇〇〇〇。又。〇〇〇〇。道。〇〇〇〇。郎。〇〇〇〇。父。〇〇〇〇。大。〇〇〇〇。山。〇〇〇〇。道。〇〇〇〇。策。〇〇〇〇。と。実。〇〇〇〇。母。〇〇〇〇。と。女。〇〇〇〇。弟。〇〇〇〇。濱。〇〇〇〇。路。〇〇〇〇。の。〇〇〇〇。魂。〇〇〇〇。と。招。〇〇〇〇。ひ。〇〇〇〇。て。〇〇〇〇。其。〇〇〇〇。墓。〇〇〇〇。を。〇〇〇〇。安。〇〇〇〇。房。〇〇〇〇。の  
 〇〇〇〇。延。〇〇〇〇。命。〇〇〇〇。寺。〇〇〇〇。小。〇〇〇〇。建。〇〇〇〇。立。〇〇〇〇。を。〇〇〇〇。又。〇〇〇〇。大。〇〇〇〇。阪。〇〇〇〇。下。〇〇〇〇。野。〇〇〇〇。ハ。〇〇〇〇。其。〇〇〇〇。父。〇〇〇〇。粟。〇〇〇〇。原。〇〇〇〇。首。〇〇〇〇。胤。〇〇〇〇。度。〇〇〇〇。と。嫡。〇〇〇〇。母。〇〇〇〇。稻。〇〇〇〇。城。〇〇〇〇。異。〇〇〇〇。母。〇〇〇〇。ハ。〇〇〇〇。夢。〇〇〇〇。之。〇〇〇〇。女  
 〇〇〇〇。兄。〇〇〇〇。玉。〇〇〇〇。枕。〇〇〇〇。及。〇〇〇〇。実。〇〇〇〇。母。〇〇〇〇。の。〇〇〇〇。墓。〇〇〇〇。を。〇〇〇〇。右。〇〇〇〇。小。〇〇〇〇。同。〇〇〇〇。ト。寺。〇〇〇〇。小。〇〇〇〇。建。〇〇〇〇。て。〇〇〇〇。子。〇〇〇〇。子。〇〇〇〇。孫。〇〇〇〇。孫。〇〇〇〇。小。〇〇〇〇。至。〇〇〇〇。る。〇〇〇〇。年。〇〇〇〇。已。〇〇〇〇。心。〇〇〇〇。月。〇〇〇〇。已。〇〇〇〇。心。〇〇〇〇。の。〇〇〇〇。祀。〇〇〇〇。忌。〇〇〇〇。者  
 〇〇〇〇。父。〇〇〇〇。母。〇〇〇〇。及。〇〇〇〇。故。〇〇〇〇。妻。〇〇〇〇。離。〇〇〇〇。衣。〇〇〇〇。の。〇〇〇〇。香。〇〇〇〇。華。〇〇〇〇。料。〇〇〇〇。を。〇〇〇〇。寄。〇〇〇〇。進。〇〇〇〇。め。〇〇〇〇。香。〇〇〇〇。華。〇〇〇〇。院。〇〇〇〇。へ。〇〇〇〇。寄。〇〇〇〇。布。〇〇〇〇。を。〇〇〇〇。寄。〇〇〇〇。進。〇〇〇〇。め。〇〇〇〇。其。〇〇〇〇。墓。〇〇〇〇。類。〇〇〇〇。轉。〇〇〇〇。せ。〇〇〇〇。り。〇〇〇〇。も。〇〇〇〇。あ。〇〇〇〇。り  
 〇〇〇〇。又。〇〇〇〇。大。〇〇〇〇。田。〇〇〇〇。豊。〇〇〇〇。後。〇〇〇〇。ハ。〇〇〇〇。祖。〇〇〇〇。父。〇〇〇〇。母。〇〇〇〇。と。母。〇〇〇〇。の。〇〇〇〇。墓。〇〇〇〇。ハ。〇〇〇〇。行。〇〇〇〇。徳。〇〇〇〇。小。〇〇〇〇。在。〇〇〇〇。り。〇〇〇〇。父。〇〇〇〇。文。〇〇〇〇。五。〇〇〇〇。兵。〇〇〇〇。衛。〇〇〇〇。の。〇〇〇〇。墓。〇〇〇〇。ハ。〇〇〇〇。龍。〇〇〇〇。田。〇〇〇〇。小。〇〇〇〇。在。〇〇〇〇。り。〇〇〇〇。又。〇〇〇〇。大  
 〇〇〇〇。江。〇〇〇〇。親。〇〇〇〇。兵。〇〇〇〇。衛。〇〇〇〇。の。〇〇〇〇。大。〇〇〇〇。父。〇〇〇〇。并。〇〇〇〇。小。〇〇〇〇。一。〇〇〇〇。親。〇〇〇〇。山。〇〇〇〇。林。〇〇〇〇。房。〇〇〇〇。ハ。〇〇〇〇。沼。〇〇〇〇。菴。〇〇〇〇。の。〇〇〇〇。墓。〇〇〇〇。ハ。〇〇〇〇。市。〇〇〇〇。河。〇〇〇〇。の。〇〇〇〇。御。〇〇〇〇。小。〇〇〇〇。在。〇〇〇〇。り。〇〇〇〇。是。〇〇〇〇。等。〇〇〇〇。ハ。〇〇〇〇。里。〇〇〇〇。見。〇〇〇〇。の。〇〇〇〇。封。〇〇〇〇。内  
 〇〇〇〇。八。〇〇〇〇。代。〇〇〇〇。傳。〇〇〇〇。九。〇〇〇〇。郎。〇〇〇〇。卷。〇〇〇〇。五。〇〇〇〇。十。〇〇〇〇。六。〇〇〇〇。文。〇〇〇〇。英。〇〇〇〇。堂。〇〇〇〇。藏。〇〇〇〇。

るる且大江屋依久と其妻水澄と迭代より詰て己見小香華と絶つる又  
政水大全も父河鯉守如の墓を建ち思ひてその後里見殿願ひ稟し那武藏  
豊嶋より日比の寶傳寺に赴けり那里大阪胤智五子子の城に在り時孝嗣の  
為守如の墓と造建く且寺の頽破不及び修復せんと其折初て少知り感  
涙坐小吐びまよ移ふと大々を又永年の香華墓所料るも既胤智が寄布  
せりと少々今さら別供養事あり只香華院小墓あり祖先と母の為  
其香華料を寄進せり然るも大阪其朋友の為小も徳る大功德を做  
るる及て孝嗣小告も知せ其かのり知る隨せり孝嗣深く感佩して稻村へ  
來り這を胤智小の君と稱て三拜の礼を仍へも足るとせ是より後  
胤智小逢ふ每必其席を避て諸兄の礼如く敬る日るり是皆後  
話説れども今語次耳けれ集りて茲結ぶの間話休題介程八犬士大

照文へ柴浦へ來り程去水陸の便宜と相説ふ照文がらち這里より水  
路と洲崎へ還り速く便路を頼額あり御教書あり然る風濤の害怕を  
思ひて近道を負ふる小あらま只下總と麻上總に至る陸路を耳かめと説き  
、犬の守あせりか然る迂遠な路も犬塚の改葬も美濃路の三日を  
れば日と縮めて早く還るべし今尚秋暑の時なれば冬の海の日暴小似む况八犬士の身を  
衛る靈玉あり且頼額の故をりて伏姫神の擁護もあら何ぞの害怕あるべしと説  
まれ八犬士皆皆諾る師父の決断勇あり理あり徑水路より久きと則這浦  
へ巨船一艘と備ひて這夜七月二十日の夕時候より纜を解き果し七頃  
風るりければ同船の主僕百十數名枕を高くもるる雲裏小船の走るに幾十里を  
け次の日の己の左側洲崎の港口小入りけり。  
作者云本編の腹稿より都文より四十六の巻端に附録目と追加

たれども本文の<sup>凡</sup>皆故の題目の<sup>ミ</sup>也。附録目と省<sup>ク</sup>み<sup>テ</sup>此<sup>レ</sup>一回<sup>ノ</sup>故の題目<sup>ヲ</sup>所<sup>レ</sup>て且長編<sup>ニ</sup>別<sup>ニ</sup>附録目<sup>ヲ</sup>して一回<sup>ト</sup>も<sup>シ</sup>も腹稿<sup>ハ</sup>あり<sup>ニ</sup>法會<sup>ノ</sup>の屢<sup>ニ</sup>故<sup>ノ</sup>棄去<sup>ハ</sup>やと思<sup>ヒ</sup>いか<sup>ニ</sup>又送<sup>テ</sup>減<sup>ラ</sup>れ<sup>ル</sup>も棄難<sup>ク</sup>て<sup>モ</sup>這一回<sup>ハ</sup>抑<sup>テ</sup>結城<sup>ノ</sup>法會<sup>ト</sup>り<sup>テ</sup>續<sup>テ</sup>て白濱延命寺<sup>ニ</sup>改革<sup>ノ</sup>の事<sup>アリ</sup>其後<sup>ハ</sup>又水陸施餓餓<sup>ト</sup>法會<sup>アリ</sup>既<sup>チ</sup>而<sup>テ</sup>最後<sup>ニ</sup>至<sup>リ</sup>て金蓮寺<sup>ニ</sup>追<sup>テ</sup>葬<sup>ノ</sup>の事<sup>及</sup>拈<sup>テ</sup>華<sup>ノ</sup>庵<sup>ノ</sup>の結局<sup>ハ</sup>約<sup>シ</sup>其<sup>レ</sup>一部<sup>ノ</sup>の稗史<sup>ト</sup>小説<sup>ト</sup>信<sup>ト</sup>佛事<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>續<sup>ク</sup>を厭<sup>ハ</sup>て終<sup>リ</sup>果<sup>ル</sup>ゆ<sup>レ</sup>作者<sup>ノ</sup>用意<sup>ヲ</sup>思<sup>フ</sup>蓋<sup>シ</sup>先祖<sup>ト</sup>父母<sup>ト</sup>弟兄<sup>ト</sup>の<sup>レ</sup>為<sup>シ</sup>祀<sup>ヲ</sup>を<sup>レ</sup>用<sup>フ</sup>甚<sup>ク</sup>追<sup>テ</sup>薦<sup>ル</sup>の佛事<sup>ト</sup>法會<sup>ト</sup>修<sup>ス</sup>まる<sup>ニ</sup>孝<sup>子</sup>忠<sup>信</sup>順<sup>孫</sup>義<sup>士</sup>の<sup>レ</sup>上<sup>ニ</sup>必<sup>ズ</sup>欠<sup>ラ</sup>ざる<sup>所</sup>也<sup>ト</sup>本傳<sup>ノ</sup>大綱<sup>目</sup>善<sup>ク</sup>勸<sup>メ</sup>惡<sup>ト</sup>懲<sup>メ</sup>約束<sup>ノ</sup>終<sup>ニ</sup>也<sup>ト</sup>這事<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>あ<sup>リ</sup>を<sup>レ</sup>然<sup>レ</sup>ども佛事<sup>ノ</sup>執<sup>ル</sup>佛事<sup>ヲ</sup>別<sup>ニ</sup>せん<sup>ニ</sup>者<sup>ハ</sup>其<sup>レ</sup>事<sup>ハ</sup>相似<sup>ト</sup>て其<sup>レ</sup>趣<sup>ハ</sup>異<sup>ナ</sup>る<sup>所</sup>を好<sup>シ</sup>看<sup>官</sup>の<sup>レ</sup>知<sup>ル</sup>る<sup>ニ</sup>克<sup>ク</sup>念<sup>ス</sup>ふ<sup>者</sup>の<sup>レ</sup>厭<sup>ハ</sup>食<sup>ヲ</sup>を<sup>レ</sup>反<sup>シ</sup>喜<sup>ス</sup>る<sup>も</sup>あ<sup>リ</sup>左<sup>ノ</sup>右<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>老<sup>婦</sup>深<sup>ク</sup>切<sup>ク</sup>愛<sup>ス</sup>評<sup>注</sup>善<sup>ク</sup>續<sup>ク</sup>

將<sup>テ</sup>西<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>見<sup>ル</sup>る<sup>所</sup>の<sup>レ</sup>知<sup>音</sup>の<sup>レ</sup>友<sup>ハ</sup>庶<sup>幾</sup>と<sup>セ</sup>ん<sup>独</sup>。  
 第<sup>百</sup>八<sup>十</sup>四<sup>中</sup> 義<sup>成</sup>功<sup>臣</sup>と<sup>シ</sup>重<sup>賞</sup>して<sup>八</sup>女<sup>ヲ</sup>を<sup>妻</sup>を<sup>ス</sup>  
 却<sup>シ</sup>説<sup>ハ</sup>八<sup>犬</sup>士<sup>、</sup>大<sup>照</sup>文<sup>ノ</sup>主<sup>僕</sup>百<sup>十</sup>數<sup>名</sup>其<sup>レ</sup>舟<sup>洲</sup>崎<sup>ハ</sup>り<sup>テ</sup>則<sup>シ</sup>救<sup>額</sup>と<sup>シ</sup>御<sup>教</sup>書<sup>ヲ</sup>を<sup>レ</sup>相<sup>捧</sup>び<sup>テ</sup>稻<sup>村</sup>小<sup>歸</sup>城<sup>ト</sup>て<sup>這</sup>美<sup>ヲ</sup>を<sup>レ</sup>歩<sup>ス</sup>上<sup>十</sup>七<sup>ハ</sup>兩<sup>家</sup>老<sup>東</sup>辰<sup>相</sup>荒<sup>川</sup>清<sup>澄</sup>執<sup>達</sup>を<sup>レ</sup>次<sup>ノ</sup>日<sup>義</sup>成<sup>主</sup>見<sup>參</sup>京<sup>師</sup>の<sup>レ</sup>首<sup>尾</sup>伏<sup>姬</sup>神<sup>ノ</sup>救<sup>額</sup>の<sup>レ</sup>事<sup>、</sup>本<sup>大</sup>禪<sup>師</sup>を<sup>レ</sup>做<sup>さ</sup>れ<sup>し</sup>り<sup>也</sup>。詳<sup>シ</sup>少<sup>シ</sup>上<sup>ク</sup>件<sup>ノ</sup>救<sup>額</sup>と<sup>シ</sup>空<sup>田</sup>殿<sup>ノ</sup>御<sup>教</sup>書<sup>ヲ</sup>を<sup>レ</sup>見<sup>せ</sup>せ<sup>し</sup>る<sup>所</sup>の<sup>レ</sup>義<sup>成</sup>主<sup>拜</sup>戴<sup>欣</sup>悦<sup>大</sup>く<sup>シ</sup>る<sup>所</sup>也<sup>ト</sup>大<sup>照</sup>文<sup>犬</sup>士<sup>等</sup>を<sup>レ</sup>勞<sup>カ</sup>を<sup>シ</sup>汝<sup>等</sup>の<sup>レ</sup>徑<sup>不</sup>瀧<sup>田</sup>の<sup>レ</sup>城<sup>へ</sup>參<sup>リ</sup>テ<sup>這</sup>美<sup>ヲ</sup>を<sup>レ</sup>老<sup>館</sup>小<sup>稟</sup>上<sup>ノ</sup>救<sup>額</sup>の<sup>レ</sup>事<sup>ハ</sup>異<sup>日</sup>の<sup>レ</sup>沙<sup>汰</sup>小<sup>あ</sup>の<sup>レ</sup>休<sup>暇</sup>の<sup>レ</sup>命<sup>ミ</sup>あり<sup>ニ</sup>如<sup>ク</sup>件<sup>ノ</sup>九<sup>士</sup>一<sup>僧</sup>の<sup>レ</sup>躬<sup>ヲ</sup>瀧<sup>田</sup>赴<sup>テ</sup>義<sup>實</sup>老<sup>侯</sup>を<sup>レ</sup>拜<sup>見</sup>其<sup>レ</sup>告<sup>ヲ</sup>事<sup>毎</sup>の<sup>レ</sup>義<sup>實</sup>欽<sup>び</sup>る<sup>所</sup>也<sup>ト</sup>那<sup>歸</sup>路<sup>ハ</sup>三<sup>體</sup>の<sup>レ</sup>事<sup>、</sup>相<sup>一</sup>文<sup>字</sup>の<sup>レ</sup>大<sup>口</sup>の<sup>レ</sup>事<sup>、</sup>美<sup>濃</sup>の<sup>レ</sup>金<sup>蓮</sup>寺<sup>と</sup>信<sup>濃</sup>の<sup>レ</sup>拈<sup>華</sup>

庵中あり奇事犬田豊後が力技の千万人の勝れしと云越不細めて  
少知り感嘆特におさかろき只義實主のさるる後中義成義通君  
両家老諸士さへ件の奇事を少知り感嘆せざるる皆成孝の孝  
感と傳へ稱賛をさける。恁而義成主は有功の諸臣等を賞禄の沙汰  
あはべしと一日瀧田赴き義實老侯と商量あり。あどりて國府臺の城の  
番士の頭人真間井樅二郎繼橋綿四郎潤鷲手古内振照俱教二文明の  
岡倉鳥山真人へさそへ行徳口の成を置れし石龜次園太越卿三市河  
るる大江屋依久兩河原る。向水五十二太枝獨鉦素手吉ふ至るまで  
咸稻村へ召さる。有恁一程お落點餘之七有種誼夾院村を法印  
豪前を召く。先度の謝恩の爲ふと。穂北の社より詰來れば開き幸の折  
りとも。則犬山道節不課て其伴當と俱稲村の城内に召置る。時八月

十五日の黄道上吉の順日る。國守里見左少將義成主烏帽子朝服を  
今朝も辰の比及正廳お着坐あり。両家老八犬士諸侍皆尉火斗目衣長  
社祈せし出仕せしはいる。第一番八犬士を召出して。這回の軍功の賞として  
各一城の主お做さしむ。米邑各一萬貫文を賜ふべしと仰る。但し上總の郡  
縣廣く且富饒の地れども。稲村へ遠けれ。股肱の家臣を置べし。其の故  
胡意當困り宛る。その中大江親兵衛の異義上總を館山の城主お做  
されがどの事。事おあり。まごに在任せ。且秩禄の定るる。然るを這回改め  
當國館山の城主とを其城を死地。速に城郭を執建く。在任を。格式  
家老の上席中。上大ま。と自親仰渡されて。且東辰相を。其城  
邑の目録を成下され。君恩既お身。餘る八犬士。かそ。共侶。美ま  
つ。退。其目録を拜見。恩賞。都て異同。仁の字。と。首を

其次第左の如し。

安房國館山城主	采邑一萬貫文	上大夫	大江親兵衛尉金碗仁
同國東條城主	采邑一萬貫文	上大夫	犬塚信濃以金碗成孝
同國大懸城主	采邑一萬貫文	上大夫	犬阪下野以金碗胤智
同國御厨城主	采邑一萬貫文	上大夫	犬村大學頭金碗礼儀
同國朝夷城主	采邑一萬貫文	上大夫	大山道節帶刀先生金碗忠與
同國小長狹城主	采邑一萬貫文	上大夫	犬川長狹莊以金碗義任
同國神餘城主	采邑一萬貫文	上大夫	犬飼現八兵衛佐金碗信道
同國那古城主	采邑一萬貫文	上大夫	犬田豊後以金碗悌順

とぞありけし。次小東六郎辰相荒川兵庫助清澄を召よむ。恩賞あり。這  
 兩家老い忠誠甚舊老氏元貞仍小劣りを。曩は素藤對治の折。這回大敵

防戦の日も進退と度不稱多。備ざる所も。あをりて采邑三千貫文の舊  
 地。今亦各二千貫文を加増を共本領五千貫文と仰ら。次小板倉武  
 者助直元堀内雜魚太郎貞住。恩賞あり。他多。這回の閉戦。勳績伯  
 仲。俱小其父の重職。嗣不足れり。あをりて家老。采邑の父の時の如く。三千  
 貫文と仰渡されけ。却其次小政木大。全孝嗣を召よむ。大田木の城  
 主。不倣する。他は素藤對治の日も。大江親兵衛を幫助て戦功あり。御旨又  
 葛師の閉戦。小其每五十二太素手吉。等數十名を將。御曹司の危戦を  
 援。強敵長尾景春を防。其軍功解。少を因。這恩賞あり。  
 格式。四家老の次席。采邑三千貫文を賜ふ。と仰ら。次小千代丸。圖書助  
 豊俊を召よむ。那身。都て約束違。軍師胤智の計策。不従ふ。大  
 敵を火攻。其大功。既。舊罪。償。不足れり。あをりて。舊地を返。賜

母系



故の如く上總國榎本の城主不做事。昔臣を召聚へて還任志と捉  
多次不姓雪代四郎與保其孫十條力二郎十條尺八郎滿呂復五郎重時  
滿呂再太郎信重安西就八景重磯崎増松有親館持又看持謙仗朝  
經大樟村主俊故等と一同召出て與保の苛子崎の賊難以來屢大  
仁を幫助く大功ありと推登して兵頭不做事十條力二尺八も尚幼小乳  
と大母音音又兩母親也を單郎が苦肉の計を以てゆる那大功の賞と  
て弟兄共小次磨君の陪堂不做事月俸二十口十口と加増を各三十口と  
賜ふと又重時信重景重有親の戦功孰も勘るべしと重時を  
兵頭不做事信重景重有親の右衛門佐殿義通仕て俱近習るべし  
と仰らる又朝經俊故の御高恩賞を以て其地の長不做事の民を憐  
れ循吏の標を以て之を旋る其後落船餘之七有種誼夾院豪

以らる義成主不見参を這有種の義士八犬士のまご當家不仕へる以て  
其幫助する一と勘るべしと重時を況僅る小兵を以て刃心岡の城を拔  
及く大山道節が軍勞不代り一最賞まべ。家前も亦使者有り有  
種を幫助く當家の為小忠ありと有り種の下總葛飾の郡之新領  
五百貫文を賜ふ舊地穂北五ヶ村と共不宜く是を館領ま。但房總を東  
南の一隅あり他郷の風俗を見不知ら由る。有種の幸不武藏不在り生平不隣  
國の珍説を撈り。利害あり。稻村へ注進ま。又家前當家の祈願  
所不做事。今より一十年毎不米粟百石を賜ふ。と恩命あり。且有種の妻  
重戸の賢女を以て良人を諫めて。愆ゆるるを以て。召出ると。答言ま。せ  
多次不石龜次園大越卿三向水五十三太枝獨銚素手吉大江屋依久等  
俱不見参を饒されて且恩賞あり。次園太へ行徳塩濱の長不做事。且卿

三其役せらる。又依よ五十二太素手吉の故ゆゑの如ごとく市河いちがわ西國せいこく河原がわら不在な住すして國府くにふ臺たいの城しろ事ことある時とき船隊ふねたいの頭人かみひととて月俸つきばう各おの五十ご口こうと賜たまふ。這こゝろ四個よつこの町人まちびとの或ある大江おほえ親兵衛おんべゑ不あ従したがひ或ある政木まさき大おほ全ぜん不あ従したがて忠ちゆうあり義ぎあり。戰功せんこうあれば俱お不あ武ぶ士し不あ執しやく立たて。庶しやく字じ帶たい刀とうを允ゆるべり。是こゝろ等ら皆みな新恩しんおんの每おのるれば賞あを先ませられしるべし。譜ふ第だいの家臣けしんの功こうある者もの不あ恩賞おんしょうの登のぼり十一郎じゅういちろう照文しょうぶんを首くびとす。抑照文おししょうぶんの招賢しょうけんの使つかひを奉たてまつりて、大法師だほふしと共とも侶り不あ関せきの八州はつしゅうを巡めぐり歴れきする始はじめより三さんつひ京師きやうし不あ使つかひとす。功こうありとす。あとのて職しやく禄りやくを推お登のぼりて。龍田りゆうでんの城しろの大兵頭おほべいとうとす。秩禄しやくりやくも亦また加増かぞへして二千貫文にせんくわんぶんを賜たまふ。且かつ那身なみの男兒おとこを故ゆゑ不あ親族おんしゆくの子ことす。若わか黨たう直塚ちゆうさか紀き二に六ろくを女め婿むすめ養やしやう嗣し不あ女め兒むすめ山鳩やまきりを妻つませしむ。宿願しゆくがんも既すで不あ聞きし。召めい容ようさせしむ。願ねがひの隨したが意したがるべし。則すなはち紀き二に六ろくを召めい出だす。然しかし直塚ちゆうさか紀き二に六ろくを登のぼり蛭むし崎さき十二郎じふにろう照

章あきらと改かへ名なして義成ぎせい主ぬし不あ見み参まゐる。他ほかの京師きやうし不あ在なり。時とき大江おほえ親兵衛おんべゑの助すけ不あ做しりし。とす。有功ゆうこうの者ものを龍田りゆうでんの城しろ番卒ばんそつの頭人かみひと不あ做しりし。這こゝろ他ほか戰功せんこうある勇士ゆうしの毎おの小森こもり但た一郎いちろう高宗かうそう印いん東とう小六せうくわく明相めいさう荒川あらかわ太郎たろう一郎いちろう清英せいへい鳥山とりやま真人まこと由世よしよの兵頭べいとうの上うへ席せきと饒にぎはる。又また浦安うらやす牛助うしすけ友勝ともかつ田た税ぜい力りき助すけ逸いつ友とも登のぼ桐山きりやま八郎はちろう良干りやうかん木曾きぞう二に元げん田でん税ぜい戸こ賀が九郎くわう逸いつ時とき甘屋あまや八郎はちろう景能けいのう俱お不あ稻村いなむらの兵頭べいとう不あ做しる。又また小水こみづ門かど目め政宗まさむね躰たて船ふね貝かい六郎むつろう敏み足あし東とう峰ほう前まへ三さん春高はるたかの瀧田たきでんの城しろの兵頭べいとうとす。白濱しらかべ十郎じゅうろう七浦しちうら二郎にじろう朝夷あさひ三さん弥やの故ゆゑの如ごとく。右衛門ゑもん佐殿さでん不あ仕つかへ。近習きんじゆくの上うへ席せきとす。都みやこに其その秩禄しやくりやくを加増かぞへる。各おの差さあり。又また真間まゐ井い樞すゑ二郎にじろう秋あき季せき繼ついで橋はし綿わた四郎しじろう高梁たかひら潤じゆん鳥山とりやま古内ふるうち美容びやうよう振照びんしょう俱お教おしやう二に弘こう經けい各おの一いち倍ばいの加恩かおんあり。又また須す利り檀だん五郎ごろう二に四し的てき寄よ舎しゃ五郎ごろうの既すで不あ恩賞おんしょうあり。國府くにふ臺たいの城しろ不あ在なり。番ばんせし。今いま番

又召させ。其隊下の衆兵に白銀二百枚と賜ふ。五十三太素を吉が乾見敷  
十名も賜ふ。亦是不同。又腕内兼四郎後岡。猿八漕地喜勘太詰  
茂佳橘等。八月俸ど加増あり。且白銀各二十枚を賜ふ。大阪下野大江親  
兵衛執達。他等。拜見せざる者。是れ。這餘諸軍兵。都て恩告。貝小漏る  
者。最後。致仕の老臣。杉倉本曾。元堀内藏人。貞行。并小森  
篤宗。浦安。乘勝。を召させ。其兒子等。の軍功の賞。とて。氏元。貞行。等。  
養老料。美田。各五百貫。文衛士。兵馬。各三百貫。文を賜ふ。と仰らる。  
又東西和睦の祝。壽。と。高。ま。え。と。参。り。給。上。甘。理。墨。之。次。弘。世。の。使。者。天。津  
九。四。郎。員。明。及。莖。野。阿。弥。七。椿。村。の。隣。外。因。太。等。就。て。來。ぬ。係。今。井  
河。原。の。木。八。八。安。房。上。總。下。總。村。長。故。老。等。亦。至。る。也。東。西。と。賜。ふ。  
抄。其。後。大。禪。師。を。召。させ。義。成。み。つ。り。其。年。來。の。大。功。德。と。告。言。て

宋版の一切経と唐の留本立。畫。を。白。衣。觀。音。の。大。懸。幅。と。沈。香。十  
斤。を。賜。ふ。又。妙。真。音。音。曳。多。單。節。の。共。女。流。る。れ。別。席。召。させ。義  
成。み。つ。り。其。功。を。與。言。有。名。の。短。刀。各。一。口。夏。冬。の。衣。各。三。襲。金。子。各。一  
百。兩。を。賜。り。け。然。が。這。君。恩。不。預。る。者。孰。か。拜。舞。せ。ざる。は。鼓。の。鼓。耳。外。の  
充。く。被。に。連。々。退。る。と。一。要。時。の。推。も。分。ら。ぬ。困。守。の。慈。善。と。其。富。を  
仰。げ。感。せ。ざる。る。り。け。り。德。而。義。成。主。の。又。大。禪。師。と。八。犬。士。等。を。召。合  
せて。宣。ふ。や。う。御。向。小。朝。廷。より。我。姉。君。を。神。小。做。され。賜。り。給。額。を。我  
意。の。富。山。の。岳。岩。小。石。の。秀。倉。を。造。り。建。て。藏。め。り。て。神。體。小。做。さ。え。且  
岳。岩。の。前。小。石。の。岳。扉。門。を。建。て。額。の。模。寫。字。を。掛。下。這。美。の。禪。師。と  
八。犬。士。等。奉。終。り。て。早。く。石。工。小。課。々。等。用。小。ま。さ。く。只。清。淨。を。上。旨。と。甘。と  
言。叮。寧。小。仰。され。ば。大。犬。士。等。兼。り。て。其。次。の。日。より。作。事。を。起。して。面



批四

○文彦堂藏

富山姫  
の神遷座  
行列



○文彦堂藏

深原

工部といそ程不約莫二十日許中。夙く落成をければ、則ち額を神  
體にて洲崎明神の神人等祝詞を誦し、法樂を献り、大禪師と開  
師と大山寺及延命寺の衆徒讀經を遷座の作法を遂げられ、遠  
近の男女山路を厭はざる者多し。有徳一程不上總なる故の推  
津の城主真里谷信昭の嫡子柳九年十一歳中、初て稻村に参勤し老黨  
鞠谷毛大支綺妙等伴當あり。去稔父信昭の没後、家臣等確執のありし  
より、参勤頗延引不及ぶと、真里谷に里見の通家るが權且稻村の城内に  
留らる。柳丸見参の日、黄金五枚と土直を呈し、執事を義成則柳丸に  
大刀を賜ふとの頃、又義成主の八家老等を召取合て、八個の息女  
達を婚嫁の一美あり。開々又本回下の編不解分るを聴ねか。

南總里見八犬傳第九輯卷之五十終

